

樞密顧問官	松室	致
樞密顧問官	櫻井	錠二
樞密顧問官	荒井賢太郎	
樞密顧問官	河合	操
樞密顧問官	鎌田	榮吉

樞密院議長男爵倉富勇三郎殿

昭和五年四月二十三日

委員長 古市顧問官 **室**

委員 松室顧問官 **五** 櫻井顧問官 **五**

荒井顧問官 **吳** 鎌田顧問官 **栄**

水町顧問官 **為** 岡田顧問官 **巳**

商工省官制中改正ノ件審査報告

極 密 光

秘

商工省官制中改正ノ件審査報告

商一

今回御諮詢ノ商工省官制中改正ノ件ニ付本官  
等審査委員ヲ命セラレ本月十六日及二十三日  
委員會ヲ開キ當局大臣及關係諸官ノ説明ヲ聽  
キ以テ之カ查覈ヲ遂ケタリ

商工省官制ノ現行規定ニ依レハ同省所管ノ外  
國貿易ニ關スル事務ハ主トシテ商務局ノ一課  
ニ於テ之ヲ掌理シタルモ近年世界各國何レモ  
外國貿易ノ伸暢ニ腐心シ國際商業ノ競争逐日  
熾烈ヲ加フルノ状態ニ在ルヲ以テ帝國ニ於テ

モ此ノ間ニ善處ニシテ能ク其ノ地歩ヲ確保シ益、  
海外貿易ノ進展ヲ圖ラムカ爲ニハ一層有力ナ  
ル部局ヲシテ該事務ヲ掌理セシメ以テ更ニ有  
效適切ナル施設ヲ畫策實施セシムルノ必要ア  
ルニ因リ茲ニ本案ヲ以テ同省内ニ貿易局ヲ新  
設シ(第二條)外國貿易ニ關スル事務ヲ商務局ヨリ  
割キ此ノ新局ヲシテ專ラ之ヲ掌ラシムルコト  
トシ(第五條)同局ノ新設ニ伴ヒ局長一人ヲ増ス  
ノ外局務ニ參與セシメ關係行政廳トノ連絡ヲ  
完ウスル爲同省ニ貿易局參與ナル職ヲ置キ商

商二

工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ  
内閣ニ於テ之ヲ命スルモノトシ(第五條)其ノ他  
局務ニ從事セシムル爲書記官一人事務官二人  
技師三人並屬及技手各六人ヲ増員セムトス(第  
九條、第十條、第十一條、第十二條、第十三條、第  
十四條及第十七條)

按スルニ本件ハ我國內外ノ情勢ニ鑑ミ海外貿  
易ニ關スル行政ヲ改善シテ其ノ振興ヲ圖ラム  
カ爲當該機關ノ充實ヲ行ハムトスルモノニシ  
テ其ノ趣旨ニ於テ敢テ不可ナリトセス然レト  
モ之カ爲特ニ一局ヲ新設スルカ如キハ方今政



府ノ高調セル整理緊縮ノ方針ト扞格スルノ嫌ナシト謂フヘカラス殊ニ本案ニ依ル貿易局ノ所掌事務ハ外務省通商局ノ所掌事務ト重複スルノ虞アリ又貿易局參與ノ制ノ如キモ其ノ實績ヲ擧ケムカ爲ニハ多大ノ考慮ヲ要スヘキモノアルヘシ唯本官等ハ前述ノ趣旨ニ顧ミ且現在諸般ノ實情ニ照シ本案ノ成立ハ暫ク之ヲ已ムヲ得サルモノト爲スノミ故ニ當局ニ於テハ前記ノ諸點ニ深ク注意シ殊ニ本案ノ實施運用上遺憾ナキヲ期スルノミナラス將來適當ノ措

商三

置ヲ執リ以テ重複ノ機關ト事務トヲ整理統一セラレムコトヲ切ニ希望ス仍テ審査委員會ニ於テハ本案ハ此ノ儘之ヲ可決セラルヘキ旨右希望事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ  
右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和五年四月二十三日

審査委員長

樞密顧問官男爵古市 公威

審査委員

樞密顧問官

松室

致

樞密顧問官 櫻井 錠二

樞密顧問官 男爵 田 健治郎 (病氣開席ニ付 決議ニ與ラス)

樞密顧問官 荒井賢太郎

樞密顧問官 鎌田 榮吉

樞密顧問官 子爵 石井菊次郎 (病氣開席ニ付 決議ニ與ラス)

樞密顧問官 水町 袈裟六

樞密顧問官 岡田 良平

樞密院議長 男爵 倉富勇三郎 殿

昭和五年四月二十四日

委員長 金子顧問官 金

委員 古市顧問官 古 櫻井顧問官 櫻

荒井顧問官 荒 河合顧問官 河

鎌田顧問官 鎌 石井顧問官 石

水町顧問官 水

日本國支那國間關稅ニ關スル協定締結ノ件  
審査報告